

第1挿話

- テーマ
- 登場人物
- 関連事項

人物のあだ名

「キンチ」「耶穌会の怖い先生」(fearful Jesuit)「べらぼうなイエズス会士」/「サクソン公」「イギリス野郎」/「気働きマラキ」; マリガンのみは、「バック・マリガン」と呼ばれる。

地名・場所の名前

ブロック港 / キングズタウン (ダン・レアリー) の港 / ダブリン湾 / 五尋湯 / サンディコーヴ / マグリン小島 / プレイヘッドのずんぐり岬 / ダンドラム / マーターリッチモンド病院 / シップ酒場...

ポケットの中身

S：ハンカチ、2ペンス、大きな鍵
M：1フロリン銀貨
H：銀の煙草入れ、ニッケルのライター

マーテロ塔 (塔の上と塔の中)

- マーテロ塔について
- マリガンとスティーヴンの関係
- スティーヴンの母の死
- 宗主国と植民地
- 男たちの朝食

マーテロ塔は大英帝国が18世紀に築いた要塞の一種、26あるのうち11番目の塔を賃貸している。賃料は年間12ポンド。一階の高さにある扉の箇所に階段がつけられて、人びとは出入りしていた。(平繁@ダブリン)

[?] MはSの対比的な性格として描かれている。Mは力関係としてSの上。Sを先輩として牽引する存在？

[?] 椅子2脚にはMとHが、Sは旅行かばんに座っている。3者の権力関係の象徴？単に寄宿人に譲っているだけ？

[?] マリガンはなぜ信仰を失ったスティーヴンをいつまでも「耶穌会の怖い先生」呼ばわりするのか？

「His Mother is beastly (畜生のように / ひどい死に方) dead”はMとSで、beastlyの受取り方が違う。

[母の思い出] ゆるゆるの茶色の経帷子、蠟と紫檀の匂い、湿った灰の匂い、ファーカスの歌、惨めなベッド、古い羽根扇、房縁の舞踏会カード、麝香の香、琥珀の数珠玉おもちゃ、鳥籠、怪傑ターコウのお伽芝居、台所の蛇口から水をグラスに注ぐ姿、芯をくりぬいて黒砂糖を詰めたランゴ、虱を潰した赤く染った爪

S:「ぼくは二人の主人に仕える僕でね... イギリス人 [大英帝国] とイタリア人 [ローマカトリック使徒教会] の。」(U-Y 1.40)

H:「ぼくらイギリスでも、アイルランド人を不当な目にあわせてきたと感してる。歴史に罪があるようだね」(U-Y 1.40)

居間【登場順】：暖炉、銃眼の窓、両開き戸(とその内側の重い扉)、ハンモック、旅行かばん、皿、ティーポット、テーブル、椅子2脚、戸棚、レモン、ベーコン、卵、小皿、3つのカップ、砂糖の入った袋、ナイフ、パン、ミルク入れ、バター、蜂蜜、大きな鍵 ("the huge key")

「新しい異教主義」→世紀転換期における新しい"new"

「アイルランドをギリシャ化せよ」

A drowned man

[?] S'きみ (M) は溺れかけた人間を助けた男さ→この男について後に詳細が分かるのか？

Mulliganの叔母

Ursula

鏡

マリガンの手鏡、「僕のひび割れた鏡」(アイルランド芸術の象徴)、「海面の鏡」。

[!] Sir Peter Teazle という名前の18世紀のダービー馬が存在した。(http://www.tbheritage.com/Portraits/SirPeterTeazle.htm)

アイルランド文芸復興運動

我ら自身 (シン・フェイン)

S→M 鍵

家賃問題 (年12ポンド)

[?] 誰がマーテロ塔の家賃を払っているのか？

オムファロス―「アダムに臍があったのか」神学論争 cf. Philip Gosse, *Omphalos: An Attempt to Untie the Geological Knot*(1857)

オックスフォード大学モードリン学寮の追想

Oscar Wilde

「牛津若道」の描写？

シェイクスピア演劇

黒ミサの真似

超人思想

逆説

ランセットと鋼鉄のペン

→スティーヴンの借金リスト (U-Y 2.60)

g.p.i

自由思想

Malachi/Buck Mulligan

Mは外見描写が豊富：ふくらかな体、頑丈ながっしりした体、淡いオークの木目色の髪/金髪(日の当たり方で変わる?)、金歯と白くきらめく歯並び、黄色いガウン、おさまりの悪いタイ、メルクリウスの帽子、ブーツ

ワイルドを思わせるふっくらした体格？牡鹿のスマートイメージ？篡奪者？「脈絡のない男」？気まぐれな男？ぶれない行動原理をもつ人物？

バック・マリガンの演じる声の役柄：説教師の口調、年寄女の謙し声(グロウガン婆ちゃん)、よそゆきの声(学者風?)、たるんだおめでたいわけ声、若い女の口調

Haines

チョッキ、テニスシャツ、グレーの中折れ帽、スカーフ

黒豹の悪夢

銀の煙草入れとニッケルのライター

アイルランド 民話の収集― 国立図書館での用事

[?] Hのアイランド語の実力はどの程度？

[?] 支配者としての英国人が、アイランドの文化にリスペクトを寄せることがあるのか？植民地主義的な態度が見え隠れしているのではないか？

「ドイツ系ユダヤ人」に関するHの陰謀史観 (U-Y 1.41)

Hainesの父

ズールー族にヤラッパを売りつけて荒稼ぎ

Stephen Dedalus

胸ポケットのハンカチ、黒い喪服；裾のほつれているお古の服；「セコハンとセコレグ」トネリコの杖

Sは、臨終の母のために祈ることを拒んだ。カトリック信仰の拒否。死後の世界から重圧を与える、幽鬼としての母；"let me be, let me live"→ハムレットとのつながり；ハムレット (の衣装を着た) との同一化？

母の死

白い陶器の器の緑のどろっとした胆汁

虱

W. B. Yeats, "Who goes with Fergus?"

臨終の祈り

[?] 苦痛が、いまだに愛の苦痛ではないそれが→母への愛でない、母の苦しみに寄せる愛ではない苦痛だとすれば、一体何の苦痛？

トネリコのステッキ；詩人の象徴、スティーヴンの未来の予兆？；トネリコ=ash, 死を比喩している？

12時半に舟 (シップ) で待ち合わせ

脱いだ衣服とペニーコイン 2枚 (two pennies)

[?] 一枚目が服の山に潜り込み (Dressing) 、二枚目はいったん潜った後に飛び出してきた (undressing) ということ？

郵便船 (mailboat)

ブロック港に向かう帆船

朝夕08:15/20:15に港を出発し (Gifford 15) 、ダブリンとウェールズのホリーヘッド間を一日2往復する。

[?]船頭と実業家：誰を指している？船は9日前に溺れた男を捜索している帆船？

[?]「磯近くと沖合で海面の鏡が軽やかな靴をはいて駆ける足に踏んつけられて白くなる」→「軽やかな靴をはいて駆ける足」とは誰、何のこと？

→第4挿話のジョージ教会の吊鐘 (スライド参照)

フォーティ・フットでの海水浴へ (塔の外)

- 母なる海としてのダブリン湾 / 葡萄酒色の海にて
- 入浴者の男たち

太陽を覆う雲

1904年当時は、Forty Footでの遊泳は男性に限られていた。

A Young Man

An elderly man

Mulligan

計算能力と習慣的に身につけられた老婆の知性；牛乳2シリング2ペンス。

サンディコーヴミルクとハンロン店のミルク (第4挿話) の対応。ほんの一匙分の紅茶が入ると、とろっと濃いミルクがかすかに濁る。"MIF" ⇔「ミルク」を入れる前の紅茶の色 (TIF) (U-Y 4.117)

Sの水恐怖症

「そんで「わたしや恥かしいんで「すよ、自分か「しゃへ「れねえもんでさ。知ってる人に言わせる大層な言葉 (a grand language) た「そうて。」」(U-Y 1.30)

若者とマリガンの会話

Bannon

"Photo girl" (=Milly)

マリガンの弟

Lily

Carlisle

アイルランドの象徴としての老婆？「おれをこの女は軽んずる」とは？アイルランドの象徴としての老婆だけでこの反応？ブルームの妄想の老婆と対になっている？

「ゆるべ棧橋でいちゃついでたぜ」(U-Y 1. 43) →「後ろの席の二人がひそひそと言葉を交わす。そう。知ってるのだ」(U-Y 2. 50)

[?]「磯近くと沖合で海面の鏡が軽やかな靴をはいて駆ける足に踏んつけられて白くなる」→「軽やかな靴をはいて駆ける足」とは誰、何のこと？